# 京都芸術大学・佐藤 卓学長が学生に語った、AI時代にも「なくならない」デザインの役割

## ～「明治おいしい牛乳」から「美濃のラーメンどんぶり」まで、「間をつなぐ」視点～

「明治おいしい牛乳」や「ロッテ キシリトールガム」のパッケージデザインをはじめ、NHK Eテレの人気番組「デザインあ」の総合指導、国立科学博物館のシンボルマークなど、時代を超えて愛される数々のデザインを生み出してきたグラフィックデザイナー・佐藤 卓。

商品デザインにとどまらず、21_21 DESIGN SIGHTの館長として展覧会の企画・運営に携わるほか、地域文化のブランディングなど多岐にわたるプロジェクトを手掛け、デザインの可能性を更新し続けています。2025年からは京都芸術大学の学長を務め、未来を担う表現者の育成にも力を注いでいます。

本記事は、2026年10月7日に京都芸術大学（KUA、京都市左京区）で開催された学生向けの特別講義から、佐藤学長が語った思考のプロセスとメッセージを凝縮したものです。

AIをはじめテクノロジーが急激に進化し、表現のあり方が問われる今、本学では「答えのない問いに向き合い、社会と自らをつなぐ力」を育む教育を重視しています。

「デザインとは『間（あいだ）』をつなぐこと」――。名作の裏側に隠されたエピソードとともに紡がれる言葉の数々は、表現に向き合う学生やクリエイターはもちろん、日常を生きる私たちに新しい視点と「面白がる心」を与えてくれます。



特別講義を行う佐藤学長。冒頭では、民営化で注目される「旧奈良監獄」再生の舞台裏も披露（写真：吉見崚）

（以下、印象的なエピソードより）

**■デザインとは、「間（あいだ）」を適切につなぐこと**

――グラフィックデザインのスキルは、あらゆる領域に応用できます。私が思うデザインの本質は「間をつなぐ」こと。人と人、人とモノ、人と未来など、あらゆる間を適切につなぐのがデザインの役割です。「AIで仕事がなくなるか」という問いもありますが、テクノロジーが進むほど「新しい間」が無数に生まれます。それらの間を見つけてつなぐという役割は、これからもなくなることはありません。

## ■中身が「そのまま」なら、外側も「そのまま」

――「明治おいしい牛乳」は、酸素をできるだけ取り除いて絞りたての味に近づけるという革新的な製法で作られています。中身のコンセプトが「そのまま」なら、外側も飾らず「そのまま＝デザインをしない」ことが答えでした。私は、一生活者として牛乳のデザインは「普通」であってほしい。そうした感覚と、日本語特有の「縦組み」を活かし、素直に言葉を配置する。商品の本質と生活者の「間」をつないだ結果、長年残り続けるパッケージになりました。




2001年発売の「明治おいしい牛乳」では、既存の牛乳のイメージとは異なる案が採用となった（写真：吉見崚）

## ■魅力的な「わからない」こそが興味を生む

――「PLEATS PLEASE ISSEY MIYAKE」の広告ビジュアルでは、プリーツプリーズを単なる衣服ではなく、粘土や絵の具のような「素材」だと捉え直しました。
メインの動物が後ろ向きなのは、プリーツ素材で動物の顔を表現するのが難しかったからですが、そのことで「これ何だろう？」と、目にした方の興味を惹き付けるデザインになりました。わかりやすさだけでなく、魅惑的な「わからなさ」を残すことも大切なアプローチです。

## ■敷居を極限まで下げて、奥深い本質へ

――岐阜県・美濃焼の産地ブランディング「セラミックバレー」では、全国のラーメンどんぶりの9割が美濃焼であることに着目し、東京で「ラーメンどんぶり展」と題した企画展を実施しました。歴史ある伝統工芸品は敷居が高くも感じますが、今や世界中の人が知っているラーメンのどんぶりを「入口」にすることで、興味を引き寄せたのです。
展覧会で敷居を極限まで下げて、奥深い美濃焼の文化へと人々をいざなう。人々を目的地まで心地よく導く「入口の設計」も、間をつなぐデザインです。




京都芸術大学の新ロゴに託した「器」としての役割を、学生たちへ語りかける（写真：吉見崚）

## ■スタイルは作らない

――私は自分の「スタイル（型）」を作らないようにしてきました。デザインの目的はあくまで「対象と目的の間をつなぐこと」。つなぐべき「間」は毎回異なるので、そこに自分の固定されたスタイルを持ち込む必要はありません。
自分の型を持たないからこそ、牛乳からガム、病院、地域のブランディングまで、あらゆる問いに柔軟に向き合い続けられるのです。

## ■面白がれるということが、最大の才能

――学生の皆さんは将来に悩むこともあるでしょうが、生き方を急いで決める必要はありません。自分の隠れた能力は、これから様々な環境や人に出会う中で自然と引き出されていきます。大切なのは「面白がれる心」を持つこと。世の中に面白くないものなんて一つもなく、それを面白くできるかどうかは自分次第です。目の前にある課題や環境を面白がれること自体が、クリエイターにとって最大の才能です。

## 〈参加した通学課程の学生より〉

「デザインは単なる芸術ではなく、領域を横断してヒトとコトを繋ぐ、重要な役割だと知り視点が広がりました。自分の型に固執せず“間をつなぐ”学長の姿勢に学び、これからの表現に活かしたいです。」

「少年のように純粋な好奇心とリサーチ力を併せ持つ学長の姿勢に驚かされました。徹底的に観察し、感じ、考えることこそが、デザインの第一歩なのだと実感しました。」

「『面白がれることが才能』という言葉にとても勇気をもらいました。デザインに向き合う佐藤学長の真摯な態度と、純粋に仕事を楽しむ姿勢を、これからの自分の人生の糧にしていきたいです。」

**■京都芸術大学（KUA）について**

京都芸術大学は、通学課程と通信教育課程を併せ持ち、約24,000名（2026年5月現在）が在籍する国内最大規模の総合芸術大学です。1977年の創設以来、「藝術立国」の理念のもと、芸術の力を社会に生かす教育を実践してきました。

通学課程（10学科24コース）では、学生が企業や自治体と協働する「社会実装プロジェクト」を年間100件以上展開。1998年に開設した通信教育課程（5学科20コース）は、日本初の4年制芸術大学の通信教育課程として、幅広い世代に芸術を学ぶ機会を提供しています。

2027年の開学50周年に向け、新たなミッション「世界中の創造力を解放する。」を掲げ、芸術教育の可能性をさらに広げています。

所在地：〒606-8271 京都府京都市左京区北白川瓜生山町2-116

URL：https://www.kyoto-art.ac.jp/

**【開学50周年のお知らせ】**

京都芸術大学は、2027年に開学50周年を迎えます。これを機に、新たなミッション「世界中の創造力を解放する。」と大学愛称「KUA」、新ロゴを発表。坂本龍一氏の音楽資産を次世代の創造へつなぐ「Sakamoto Ryuichi Lab at KUA」をはじめ、次の50年に向けた新たな挑戦を進めています。

開学50周年特設サイト：https://www.kyoto-art.ac.jp/info/kua50th/

---

学校法人 瓜生山学園　京都芸術大学のプレスリリース一覧

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/26069

---

＜本件に関する大学へのお問い合わせ先＞

学校法人瓜生山学園 京都芸術大学　広報課

担当：木原、田中

TEL：075-791-9112　E-mail：kouhou@office.kyoto-art.ac.jp